

自己評価公表

【概要】

令和5年度は、年少児88名、年中児113名、年長児101名の計302名で迎えた。また今年度より、満三歳児クラスを開室し、令和5年5月より3名が入園し、現在24名が在籍している。

現在、328名の園児が在籍しており、年度途中入園児は26名である。途中入園児が安心して園生活を始め、他の園児も新しい友達を快く受け入れていくことは、全教職員の日々の努力の賜物であり、今後も継続して取り組みたい。

利用者調査 NO.3「園は、お子さんを理解し、一人ひとりの性格、個性に配慮しながら関わっていると思いますか」の問いには、89%の保護者が「思う」と回答している。

すべての子に「楽しい幼稚園」を。保護者や地域の方々に「信頼される幼稚園」を。全教職員が「誇り、誇れる幼稚園」を目指している。

【教育目標】

一人一人を尊重し、心身ともに健康で心豊かな幼児の育成を目指し、次の目標を設定する。

- 明るく元気な子
- 思いやりのある子
- 進んでやりぬく子

【教育目標を達成するための基本方針】

幼稚園教育において育みたい資質・能力を総合的に育てられるように、幼児理解と環境構成に努め、幼児の主体的な活動を重視した教育を行う。

① 「明るく元気な子」の実現のために

【心のたくましさを育てる保育】

自立心を育むために、生活習慣を身に付ける指導の工夫や自分のことは自分で行う機会を重視し、幼児期に必要な基本的な生活習慣を確立する。

「成果」

年少組は初めての集団生活に入園当初は親と離れることが難しく、また自分のことを自分で行うことは難しかったが、保育者や保育補助員が毎朝快く受け入れ、園長や担任との挨拶、朝の準備（着替えやロッカーの使い方等）を一人一人丁寧に教えることで、一学期終わりには、自分の身の回りこと、排せつ自立等が行えるようになった。

年中組では、基本的な集団生活に必要な習慣は出来るようになるため、保育者や保育補助員は、見守ることを中心に、必要な時に声掛けや補助をする姿勢を取っている。

年長組では、子供同士で教え合ったり助け合う姿がみられた。
利用者調査 NO,2「園は、子供が進んで挨拶ができるように配慮し、工夫して指導していると思いますか」の問いには、81%の保護者が「思う」と回答している。

また、NO,6「園は、子供の基本的な生活態度が身に付くように努めていると思いますか」の問いには、91%の保護者が「思う」と回答している。

【体のたくましさを育てる保育】

体力の向上を図るため、体を動かす遊びを通して多様な体の動きを体験できるような環境を構成し、発達に応じた活動を工夫する。

「成果」

園庭で遊ぶ自由時間を園全体で増やし、朝の登園後からクラス単位で外遊びを行った。
また、今年度より満三歳児保育を始めるにあたり、新設遊具を設置（砂場の環境整備・木製遊具）し、満三歳児から年長組の幼児が安全で思う存分遊び込むことができ、心身の発達を促すことができた。

「課題」

本園は園庭、アスレチック広場、畑を有しているが、園庭やアスレチック広場では遊びを展開できた。しかし、年間を通しての畑の農園活動が課題である。

四季折々に、いちご、じゃがいも、さつまいも、大根の収穫体験が出来るが、日常保育中に植物の種まきから収穫までの一連の体験が課題となっている。畑にある草花や虫の採取等を活発に行えるような保育者の工夫や時間の確保が今後の検討課題となっている。

利用者調査について、NO,5「園は特色のある教育として、畑を使った栽培活動、収穫体験は大切だと思いますか」の問いに99%の保護者が「思う」と回答している。

次年度以降も継続し種まきから収穫までの一連の体験を行い、さらに園児自ら草刈りや水やり等の世話をし、植物や生物の観察等を行い、園児が主体的に自然環境に触れあう機会をより多く取り入れたい。

② 思いやりのある子の実現のために

【一人一人を大切に作る保育】

一人一人の個性を伸長するために、個別指導計画や個別支援計画の配慮事項に基づいてチーム保育を推進する。また、学級経営の中で、互いに認め合える温かい人間関係を築けるように保育者が温かい人間関係のモデルを示している。

「成果」

令和5年度の園内研修の目的「教員一人一人の指導力の向上を目指して、日々の保育の振り返りから幼児一人一人の成長・発達を捉え、本園が目指す教育目標を達成するために必要な指導上の工夫を考え合い、実践力を身に付ける」を主題として全職員で研究

を進めた。定期的に各クラスの研究保育を行ない、講師によるアドバイスをいただき、子供達の遊びや生活の充実を図った。

「課題」

園内で ICT 化を進めている途中だが、保育者の事務的な負担をさらに軽減し、研修や保育者同士の情報共有のための十分な時間を確保したい。

保育者が年間を通して自分の保育の見通し（年度末までに各学年で何を育てておくべきか）を持ちたい。

③ 進んでやりぬく子の実現のために

【直接体験】

様々な体験を通して発達に応じた体験ができる環境を構成する。

行事等を通して、自分の力で最後までやってみようとする気持ちを育てるため、保育者や友達と共に考えながら、最後までやり遂げた満足感を味わえるようにする。

「成果」

今年度は、コロナが収束傾向にあるため、年間行事をコロナ以前のやり方で開催できた。

本園では、納涼会、運動会、遠足、お餅つき、絵画製作展、おひな祭り会（お遊戯会）等を行い、幼児の興味関心を深めることができた。

利用者調査 NO,13 「園は、行事等に保護者が参加しやすいように工夫していると思いますか」の問いに、94%の保護者が「思う」と回答している。

「課題」

園児が自分のこと（したいこと）を自分で行う喜びを感じられるよう園児主体の活動や行事を多く取り入れたい。また、保護者にとっても楽しさや子供の成長を感じることができる機会を増やす工夫をしたい。

【評価結果の公表等】

令和6年1月31日 本園ホームページ内ニュースに公表した。